

8.子どもがつくる地域のつながり
おっかわ寺子屋ちょっこのボランティアを経験して

芝田悠人

1.始めたきっかけ

おっかわ寺子屋ちょっこり

子どもを中心にしたまちづくりという活動を始めた。「居場所づくり」とか「子ども食堂」など子どもを支えるコンテンツが様々ありますが新美さんたちは専門家でもない、裕福でもない、ごく一般的な市民が今あるものを活用して、無いものは無理のない範囲でなんとかして、今自分の目の前にいる子ども達の育ちを、なにかしらお手伝い、または応援をしたいと考えこの活動を始めた。

難しいことはよく分からない。

だが、今目の前にある課題、見えてしまった「なんとかしたい」と感じたことを仲間と一緒に考え、行動することで、自分たちの住んでいるこのまちが より良い方にむかうことのきっかけのひとつにでもなればよいなと思い日々活動している。

2.これまでの開催日時、食事メニュー、食事以外のプログラム

○平成 29 年 4 月から開催した日時、食事メニュー

おっかわ寺子屋ちょっこり

おっかわ寺子屋ちょっこりでは食事以外にも遊びの時間やおやつの時間、さらに子どもたちが大人と一緒に食事をつくる時間もある。

4月1日	おにぎり、味噌汁
4月15日	
5月6日	竹の子ご飯、肉じゃが、豚汁
5月20日	
6月10日	カレーピラフ、コールスロー、キャベツスープ
6月24日	ごはん、豚汁
7月1日	カレーライス
7月25日	炊き込みご飯、味噌汁、酢の物
8月5日	チラシ寿司、味噌汁、茄子の煮びたし
8月19日	
9月2日	
9月16日	カレーライス
10月14日	炊き込みご飯、味噌汁、かぼちゃ煮
10月28日	ドライカレー、スープ
11月25日	鍋
12月2日	鍋(寄せ鍋、トマト鍋、豆乳鍋)
12月16日	シチュー、ごはん

ちくさこども食堂

7月9日 棒棒鶏風冷麺、餃子、おかゆ

八社こども食堂

12月17日 クリームシチュー、ごはん or パン、鳥の照り焼き

3.参加者と推移

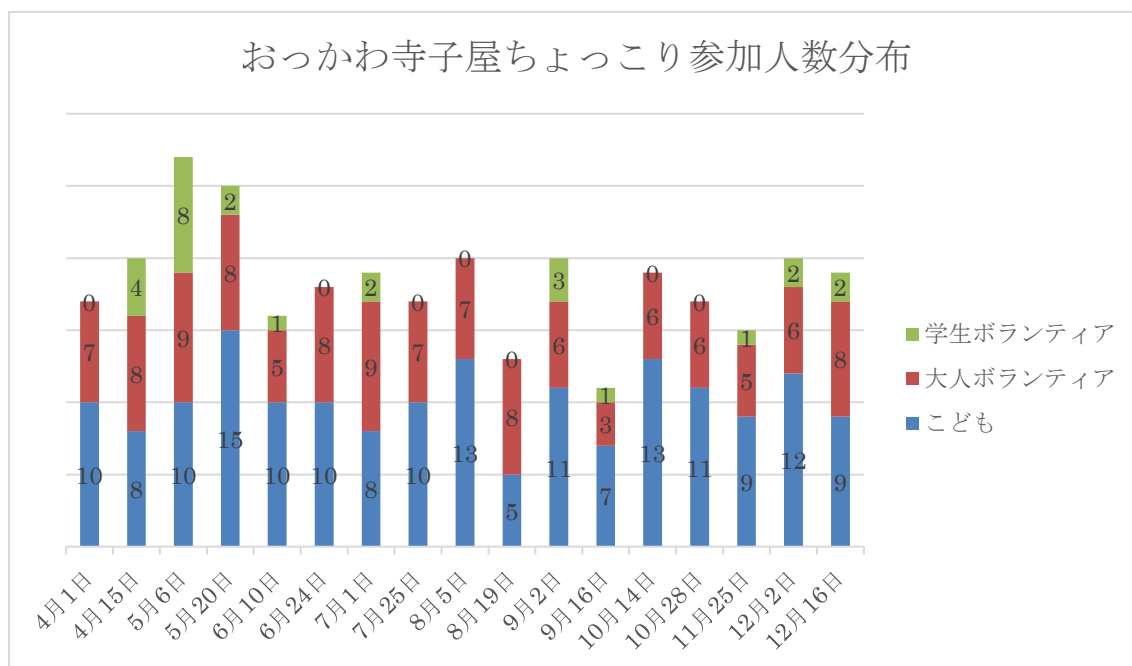


図 1 おっかわ寺子屋ちょっこり参加人数分布

4.参加者について

おっかわ寺子屋ちょっこり

子どもたちの多くは、おっかわ寺子屋ちょっこりが開かれている成岩地区からきている子が多い。ボランティア以外の大人の参加者は見たことがない。

八社子ども食堂

八社子ども食堂の参加者は小さい子どもからご高齢の方まで様々だった。家族連れや、子ども同士、お一人で来ている方もいた。

5.課題

おっかわ寺子屋ちょっこり

おっかわ寺子屋ちょっこりの課題は2つあると考える。

1つ目は場所の問題である。おっかわ寺子屋ちょっこりが開かれている成岩公民館は駅から遠いため車でなければボランティアが参加しにくいことと場所が分かりにくいことが挙げられる。

2つ目は食材を保存できない問題だ。そのため、当日などに食料を購入しなければならず、ボランティアの方は主婦が多いので時間がないので大変そうだと感じた。

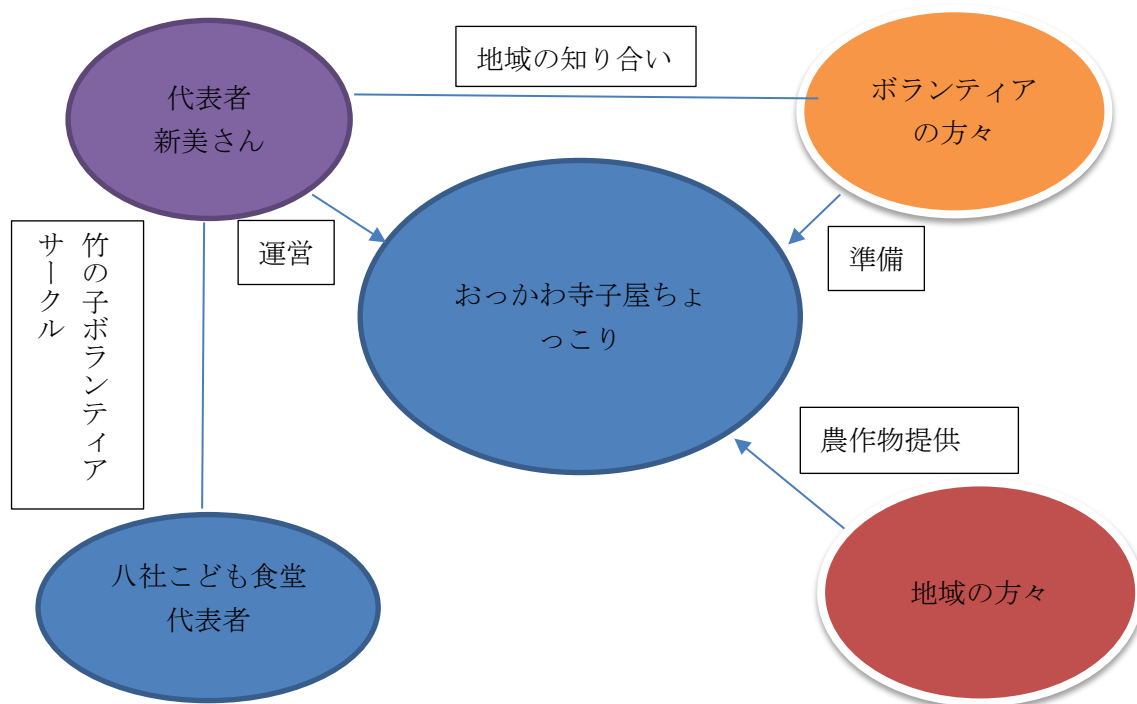
6.継続するための工夫

おっかわ寺子屋ちょっこり

おっかわ寺子屋ちょっこりが終わったあとに毎回話をしている、今日あった出来事や、こども一人一人の様子を話し合う。

場所の課題は、その日だけ借りられるのではなく現在近くで食料などを保管できる建物はないか探しているようだ。

7.子ども食堂を支える関係者マップ



8.おっかわ寺子屋ちょっこのボランティアをして感じたこと

初め私は子ども食堂という言葉を知らなかった。メディアでは貧困などといったマイナスイメージの言葉を並べていたのでどんな感じなのかなと思っていたが、実際におっかわ寺子屋ちょっこりに参加すると貧困などといったマイナスイメージはなく、少し大きな家族というイメージでとても暖かい雰囲気だった。参加している子は他の子ども食堂と比べると少人数で学年は違うが同じ小学校からきている子が多い。ボランティアとして参加すると子どもの人数が少ない分1人1人と仲良くなれて学校での様子や、家でどんなことをしているかなどを話してくれるので他の子ども食堂より、よく子ども達のことを知ることができると感じた。おっかわ寺子屋ちょっこりは子ども達が帰ってから話し合いがありその際に子ども達が話してくれたことを他のボランティアの皆さんに伝えるなどして情報交換をして子ども達の今日の様子を共有しているのでそれも子どもの参加人数が少ないからこそできることなのかな、と感じた。